

# 2008 関西トレセン U-14 リーグ第9節活動報告

【報告者】 土井和則 (和歌山県トレセンU-14 スタッフ)

日 時：2009年 1月24日 (土)

会 場：兵庫県立三木防災総合公園 第3球技場(人工芝)

和歌山県トレセン U-14 参加選手					
背番号	氏 名	ポジション	身長	体重	所属チーム名
1	谷 口 峻 大	G K	175.0 cm	70.0 kg	和歌山大学附属中学校
2	川 崎 大 輝	D F	156.0 cm	50.0 kg	岩出F C. A Z U L
3	佐 古 将 太	D F	172.0 cm	55.0 kg	岩出F C. A Z U L
4	松 本 峻	D F	170.0 cm	53.0 kg	和歌山市立 紀之川中学校
5	中 嶋 泰 仁	D F	165.0 cm	48.0 kg	和歌山市立 紀之川中学校
6	山 内 紀 京	M F	156.0 cm	44.0 kg	和歌山市立 明和中学校
7	山 路 真 司	M F	168.0 cm	52.0 kg	岩出F C. A Z U L
8	鹿 嶋 夕 斗	M F	160.0 cm	47.0 kg	和歌山市立 明和中学校
9	水 落 絢 暉	F W	173.0 cm	58.0 kg	H.L.P デポルターレ U-15
10	奥 田 晃 也	M F	172.0 cm	55.0 kg	三佐木アルマボーラ
11	馬 崎 直 士	F W	165.0 cm	55.0 kg	和歌山市立 明和中学校
12	森 岡 佑 平	D F	159.0 cm	50.0 kg	和歌山大学附属中学校
14	田 口 遼	M F	152.0 cm	38.0 kg	和歌山市立 紀之川中学校
15	下 地 皓 太	M F	155.0 cm	43.0 kg	F C和歌山V I V O
16	宮 本 正 明	G K	173.0 cm	65.0 kg	H.L.P デポルターレ U-15
18	松 元 大 樹	F W	172.0 cm	68.0 kg	ミラグロッソ海南S C

## ○全体

- ・闘うこと、激しいゲームをする
- ・自分たちからアクションを起こし攻守に関わり続ける
- ・コミュニケーション、コーチング
- ・見えている選手が指示を出す→原因と現象を探る
- ・良い準備と良い判断

## ○守備

- ・ロングボールを蹴らさない→前線からの守備
- ・スペースを与えないブロック、ラインの形成
- ・ボールを奪われたら、すぐに奪い返す→素早い切り替えの徹底と質の高い守備

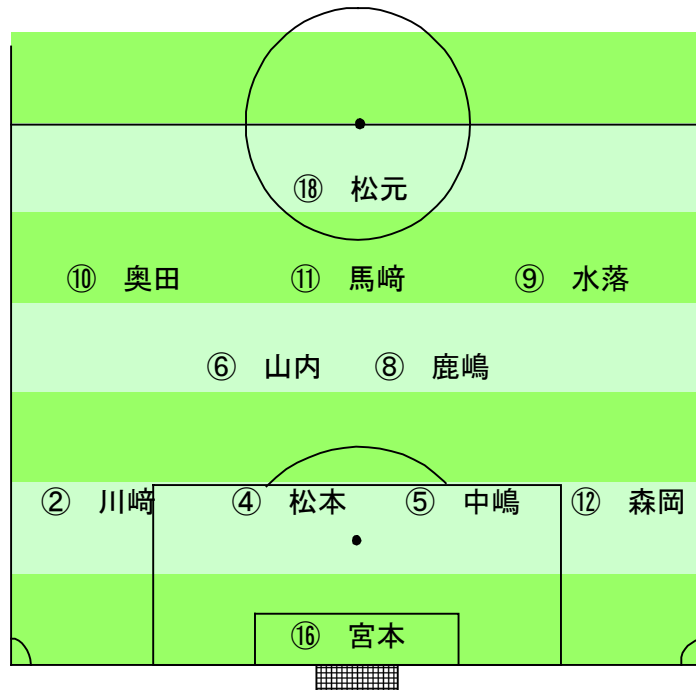
## ○攻撃

- ・攻撃の拵りと厚みの意識(特にゴール前の厚みのある攻撃)
- ・常に考えながらのプレー(頭を休めない)

- ・動きながらのスキルの発揮(パスの質、コントロールの質)
- ・コミュニケーション(強く動き出すことによってボール保持者への意思表示)
- ・バイタルエリア、トップを意識する(遠くを観る)
- ・スペースを共通で持つ
- ・サポートの質 (ボールがない時、ボールの移動中にどうする?)
- ・トライアングルの形成→点と線と面(面を意識してパスを出す)
- ・ボールを受ける選手がタイミング良くスペースやギャップに顔を出す→ボール保持者に多くの選択肢を創るためのサポート
- ・サイドの高い位置で数的優位を作る→そのための速いサポート
- ・色々なアングルからのサポート

1 2 : 0 2kick off (30分-5分-30分)

和歌山県トレセン 対 ヴィッセル神戸  
 1  $\left[ \begin{array}{ccc} 0 & - & 2 \\ 1 & - & 2 \end{array} \right]$  4



〈交代〉

時間	OUT	IN	備考
30分	⑫ 森岡	③ 佐古	③佐古 CDF・⑤中嶋 RDF
30分	⑯ 宮本	① 谷口	

〈得点〉

時間	チーム	得点者	得点経過 (～:ドリブル →:グラウンダーパス ↑:浮き球 パス ×:混戦 S:シュート H:ヘディング)
16分	ヴィッセル	⑮	PK
23分	ヴィッセル	⑬	(中央)⑪→(右)⑬右足 S
33分	ヴィッセル	⑮	(左)⑥→(左)⑨→(中央)⑮右足 S
34分	ヴィッセル	⑨	(右)⑬→(右)⑮～→(中央)⑨右足 S
52分	和歌山	⑪ 馬崎	(中央)⑨→(中央)⑪右足 S

## 【成果】

- プレッシャーが厳しくない状況では、ボールを自分たちのペースで回すことができた。  
特に中盤で前を向いたプレーの選択肢を増やせた。

## 【課題】

- 1対1で、もっと相手の近くで対応できないと、相手に自由にプレーされてしまう。
- ペナルティエリア内やゴール前での粘り強い厳しい守備。
- 中盤での守備が甘く、少ないタッチ数でボールを回されるとボールウォッチャーになり、数的優位にもかかわらず突破されてしまう。□ PKを与え失点
- DFがスライドした時に、FW、HFは逆サイドに蹴らさない守備をする。□ サイドハーフの守備が遅れ相手サイドバックのボールを追い越す動きから失点
- 逆サイドのサイドバックが中に絞りすぎ、ボールウォッチャーになってマークが見えていない状況があった。
- サイドバックは縦への運動量を増やし、センターバックを釣り出されないように最後まで粘り強い守備をする。
- ボールを奪った直後に浮かしたパスでボールを失う。奪ったボールは確実に預ける。
- 遠くを観る。観るところが近すぎて角度もない。
- ボールから遠いところでマーク、スペースを観て攻守の切り替え状況を判断してスタートポジションを取りアクションを起こす。
- ボールが縦に動く傾向が強く、単発で選択肢が少なくなっている。(攻撃の幅、厚み)横、斜めのパスで角度、方向を変えることによってディフェンスに変化を起こす。
- 自分たちのアクションに対して相手の変化を感じようとしない。味方だけを意識してしまい、相手の状況まで観ないで相手にマークされている味方にパスしてしまい、ボール保持者がタイトな状況になってしまう。
- くさびに対する足元への強いパスなど、パスの出し手がしっかりと状況を把握し、的確な判断を伴った意図のあるパスを出すこと。
- 足元へのパスが狙われている時にもっと周りがアクションを起こし相手の裏を狙う。受け手がパスを出されてから受動的に動き出すのではなく、自ら能動的にアクションを起こしパスを受ける。
- 後方から観えている選手がしっかりとコーチングする。
- 各選手が違うポジションで受けることを考えて、ボールに寄って受けたらシンプルにパスして自分はボールを超えて高い位置にランニングしてできたスペースに他の選手が入りパスコースを増やして相手に狙いをつけさせないようにすることが必要。
- ボランチはボールに寄りすぎず、中央で相手のFW、MFの間の狭いスペースに入ってボールを引きだす。
- 攻撃時、サイドバックのスタートポジションを高い位置から。